

町名の由来

月ヶ上 (つきがうえ)
山川を挟んだ川久保の東にあり、新城村に通ず。寛保3(1743)年の大火で全26軒の内23軒が消失すとの記録がある。

田町 (たまち)
東海道付替え整備以降の慶長14(1609)年頃から開発が進んだと思われる。明和2(1765)年大風水害で山川の石橋が流失し、一帯が浸水した。

片町 (かたまち)
加藤氏入部の天和2(1682)年、東見附が設けられた。「伊勢参宮名所図会」の枳形は当見附と思われ。慶長10年の東海道付替えて東端となり、江戸口となった。

松原町 (まはらちよ)
当町南で野洲川が屈曲する所が「牛ヶ淵」といわれ、慶長5年の家康謀殺が計略されたといふ。

作坂町 (つくりさかちよ)
慶長6(1601)年、宿駅制定と同時に伝馬町に指定された。町の西端で北裏通りが分岐し、高札場が設けられ「辻」と称された。町名の「作坂」は「造酒」から付けられたともいわれる。

旅籠町 (はたまち)
慶長6年、作坂町と共に伝馬町に指定された。南は野洲川の河原へ続き、町のうち南裏通り一帯を川岸と称した。東端南側に伝馬会所があった。

葛籠町 (つづみちよ)
東海道を挟んだ両側町。町名は特産品の葛細工にちなむと思われる。町の東西に辻が南北に通る。

大池町 (おひけまち)
町の東西の端を南北に辻が通る。町の東端南側に問屋場が置かれ、北側には人足部屋があった。水口三筋町の中心地であったとも思われる。

柳町 (やなぎまち)
町の東西の端を南北に辻が通る。商家が多く、葛籠町大池町と並び水口宿の中心をなしているとも思われる。

東町 (あしがしちよ)
慶長10年以前は田福寺門前から野洲川沿いに新城村へ通じ江戸口と称し、大注連縄(勸請縄)を張り、東の境界であった。

湯屋町 (ゆやまち)
古くからあった町。お風呂屋さんがあつたところから町名が起つてきたとも思われる。八丁堀殿屋敷の地名が残る。

瀧町 (たきまち)
甲賀町の瀬出身者で構成された町と思われる。

池田町 (いけだまち)
北は古城山に続く。甲南町の池田出身者で構成された町と思われ。

大原町 (おほはらまち)
甲賀町の大原出身者で作られた町と思われる。北は古城山へ続く。

呉服町 (くれくまち)
北裏通りで、町の北側に真宗大谷派慶園寺があり、天正13(1575)年、地頭に移転するが寛永年中(1624~44)に当地に居る。

永原町 (ながはらまち)
南裏通り。西端を伊賀街道が通る。西に旧水口3ヶ村のうちの中村の氏神、日雲神社がある。

鍵中町 (かぎなかつちよ)
東海道・真中筋と伊賀街道の交差点から南側の町。大正時代に中瀬古と合併するまでは、「鍵町」と呼ばれていた。

中島町 (なかしまちよ)
東側は伊賀街道があるが南北に通じ、北に折れると鍵町、北は伴町と接し南は蓮華寺境内に接す。

西町 (にしまち)
町の中程を大辻が通る南裏通りの町。南の森に国造神社があり弟殿と称し、旧水口3ヶ村の西村の氏神と思われる。

夷町 (えびすまち)
西端を伊賀街道が南北に通る。「恵美須(酒) 蛭子町」とも書かれている。

魚屋町 (うおやまち)
町名は魚屋さんから来ているとも思われる。

伴町 (ばんちよ)
東端を伊賀街道が南北に通る。慶長7(1602)年の検地帳に町名がみえる。

平町 (ひらまち)
中程を大辻が南北に通る。元は「伊勢屋町」と称した。寛永12(1635)年、北側に人足会所が置かれた。

米屋町 (めやまち)
西端の馬渡川に石橋が架かり、東海道が三筋に分岐している。旧水口の西端で京口と称し東の江戸口と同じく大注連縄を張り、通行人を下乗させ、被り物を脱がせたといふ。

市場町 (いちばまち)
石橋から三筋に分かれる南裏通りで、西平に水口代官所や町奉行所が置かれた。その南に御茶壺屋敷があった。

中之町 (なかのちよ)
北裏通り。西を大辻、東は伊賀街道と接す。北西に日蓮宗本正寺がある。

塗師屋町 (ぬしやまち)
三筋町の北裏通り。北は馬渡川を挟んで大徳寺境内。漆を使う「塗師」が居住していたところからついた名前と思われる。

坂町 (さかまち)
日野道方面に慶長検地頭から家が建つたとも思われる。

天王町 (てんのうちよ)
東端を岡山城の堀の一部と伝えられる馬渡川が流れ、石橋が架かる。町名は八坂神社の旧名天王社にちなむ。北町、河内町と共に伝馬町(西伝馬)に指定されたが、真享3(1686)年の大火で退転。

河内町 (かわちちよ)
慶長5(1600)年以降整備されたとも思われる。天王町、北町と共に伝馬町に指定されるが50年程で退転する。

北町 (きたまち)
東西の直線町であったが、天和2(1682)年の水口藩成立時に北へ迂回させられ、南北通りの町となる。天王町、河内町と共に一時伝馬町に指定された。

天神町 (てんじんまち)
寛永10(1633)年の水口城築城と、天和2(1682)年の水口藩成立時の、東海道の二度の付け替えて、全町が心光寺の北側へ移動した。

小坂町 (こさかまち)
慶長の東海道整備の頃は真直ぐに東へ伸びていたが、天神町と同様に築城、藩成立により下級へ移る。町内の南側は下級武士の百間長屋。

大岡寺町 (たいおんじちよ)
昔は、大岡寺の門前「大岡寺門前町」と称したが、現在は大岡寺町と云う。

心光寺門前町 (しんこうじもんぜんちよ)
延喜3(903)年に菅原淳茂が寺を開くとともに門前に家が建ち、町場化したものと思われる。寛永の築城時と水口藩成立時に、寺とともに北へ移動したのも。

郷山 (ごうさん)
天王町から天神町の北方後野との間の畑地に拓けた在野。江戸時代から明治時代に人家が増え町内となった。

綾野 (あやの)
古城山西麓から柏木神社に至る一帯の原野をいい、享保2(1717)年頃から新田開発が行われ、水口宿の助成に充てられた。西方に美濃部天満宮(現綾野天満宮)があり、御茶園が拓かれた。

北邸 (きたやしき)
天和2(1682)年の藩庁成立時に藩邸内に入つた町で、明治以降に藩邸内の町が他の宿場内の町内と一緒になつた。北の東海道を背にして百間長屋が藩邸の防御を兼ねて建てられていた。

広小路町 (ひろぢちよ)
これら3町も明治4年の慶應後、旧藩邸内の町にあつた町から移行してできた町内である。

西小路町 (にしぢちよ)

内殿町 (うちどのちよ)

美濃部 (みのべ)
美濃部郷の中心地であつたと思われ。その昔は、菅原家の荘園であり、道真の四男淳茂の子孫一族が美濃部氏である。この集落も水口城築城に伴い寛永10(1633)年に東見寺と一緒に現在の地に移動している。

東邸 (あしがやしき)
旧藩邸内の呼び名であつたが、明治初期の改変で、武家屋敷も徐々に般住宅地へと変貌した。

田中 (たなか)
かつて美濃部郷の集落であつたと考えられ、古い時代から存在した集落であつたと思われる。水口城築城にあたり、今の地に移つた。

八幡町 (はちまんちよ)
江戸時代の古地図に、藤八幡宮周辺を八幡町と記載しており、昔から存在した町内と思われる。

水口町市街圖

縮尺六十分の一



- 山
- 河川
- 道路
- 寺院及佛堂
- 神社
- 森林
- 竹林
- 水
- 田
- 園
- 池
- 井
- 塚
- 墓
- 官廳及團體
- 官廳地

「水口の沿革」東海道50番目の宿場(水口宿)「水口宿をよめる会編」より抜粋

昭和20年前後の地図と思われる。